

Afternoon Music

William Gillock
2023.11.15 No.93

<https://www.gillock.jp/>

<http://www.facebook.com/GillockAssociationOfJapan>

日本ギロック協会会報[アフタヌーン・ミュージック]第93号

©William Gillock Association of Japan

新・チャットでギロック ★リニューアルしました!★ 第1回

こどものためのアルバム ウィンナーワルツ・その1

~MASA先生とともに、ギロック作品を深掘りしよう~



●YOKOこと編集部・前田

陽子：MASA先生、こんにちは。今回よりチャット

でギロックの担当をさせて頂く、YOKOと申します。私が初めて弾いたギロック作品は「こどものためのアルバム」の1曲目「ウィンナーワルツ」でした。あの日から30年以上経ちます。どうぞよろしくお願いいたします。

「ウィンナーワルツ」を初めて弾いたとき、自分が工夫しなくても湧き出てくるリズムの軽やかさ、初めて聴く気がしない、キャッチーなメロディー、本場のウィンナーワルツには無さそうな、オシャレな転調（しかもいきなり来る感じ?）、不思議な感覚になったことを今でも覚えています。



★MASAこと松田昌先生：

YOKOさん!こちらこそ

よろしくお願いいたします。気持ちを新たに、ギロック作品の魅力みなさんと一緒に考えることができたらいな~と思っています。「ウィンナーワルツ」は、僕も大好きな曲です。この曲は、僕のピアノアレンジのレッスンに来てくださっている方には、分析しませんか?とお勧めしている曲でもあります。おっしゃる通り、湧き出るリズム、キャッチーなメロディー、オシャレな転調!とっても素敵です。それらと関係があるので、僕のピアノアレンジレッスンでの分析の内容について、少しお話ししてもいいですか?



↑笑顔の素敵な、松田昌先生



●YOKO：ありがとうございます!ぜひ、伺いたいです。



★MASA：この作品の分析には、いくつかのポイントがあります。

- ①この曲の特徴は何か? (全体的な曲の感じ)
 - ②好きなところはどこか?
 - ③ 素敵な和音をチェックしよう!
 - ④何調の曲で、どのように転調しているか?
 - ⑤素敵なメロディーをチェックしよう!
 - ⑥指導のポイントはどこか?
- こういったことを、答えてもらっています。



●YOKO：わかりました!私も考えてみます。会員の皆さんもぜひここで、楽譜を出して、ピアノの前に座って、自分の答えを考えてみてくださいね~!



それではさっそく、分析ポイント①から順に考えてみます。この曲の特徴は何か? (全体的な曲の感じ)・・・タイトルが、「こどものためのアルバム」では「ウィンナーワルツ」ですので、ワルツの中でも、ウィーンに関わりのある・・・例えばシュトラウス一家や、シュランメル兄弟などで有名な、ウィンナーワルツを意識して作曲されたのかな、と私は思いました。

私の所属する西宮定例会では、「ピアノ・オール・ザ・ウェイ4」に掲載されている同じ作品のタイトルが「古きよきウィーン」になっているため、ルドルフ・ジーツインスキーの「ウィーンわが夢の街」の方が、シュトラウスのワルツよりも曲想が近いのかな?という話になりました。



★MASA：なるほど・・・そういう解釈もありますね~!僕は、違いますが・・・

(笑)。タイトルのOld ViennaのOldをどう解釈するかですが、「ウィーン音楽の中での古い、新しい」ではなく、「現代から見てウィンナーワルツは古きよき時代のダンスミュージックだな~」という意味だと思っています。



●YOKO：Oldの解釈!目からうろこです!そうですね、古きよき時代をギロッ

クがイメージしながら作曲した感じでしょうか。



★MASA：余談ですが、恥ずかしながら、僕はジーツインスキーの「ウィーンわが夢の街」を知りませんでした。早速検索すると、素晴らしいシュワルツコップの歌が出てきました。シュトラウスよりもっとポピュラー音楽に近いと思いました。年代も今に近いようですし……。でも、素晴らしい曲を知ることができました。ありがとうございます～！



●YOKO：いえいえ、私も西宮の学びから得たことでして…ちょうどコロナが五類に移行される直前で、ウィーン音楽に関することをメンバーで調べながら、「ウィーンわが夢の街」を視聴して、「ウィーンに行きたい～～～(*_)海外に行きたい～～～(*_)」と、皆でぼやいていました。ギロックのウィナーワルツは、「ウィーンハようこそ！」みたいなキャッチフレーズが、よく似合います。

次に、分析ポイント②好きなところはどこか？…ですが、パッと思いつくのは、15～16小節にかけての終止形？半終止にも感じられるのですが、私の感じるギロックらしさが、ここにあり、惹かれる場所です。



★MASA：なるほど！そうですね～！ひとつだけですか（笑）。僕は、好きなところはいっぱいあります（笑）

特に、リズムが大好きです！ここでいうリズムとは、左手で作るリズムが絶妙なのです。ワルツで演奏というと「ブンチャッチャッ」と3拍弾いてしまいがちなのですが、ギロックはそうしないで、「ブンチャッ・・・」と、3拍目を空けているのが本当に素晴らしい！そしてその2拍目の「チャッ」で造られた音のない隙間に、右手のメロディーが入ってくる。この両手のバランスが素晴らしいから、弾いていても気持ちいいのだと思います。この

ことが、最初にYOKOさんが書いてらっしゃる「自分が工夫しなくても湧き出てくるリズムの軽やかさ」そのものだと思います。さらに、そのリズムは「ブンチャッ・・・|ブンチャッ・・・|ブンチャッチャッ|ブンチャッ・・・」と3拍の小節を入れて、4小節のまとまり・・・「リズムフレーズ」とでも呼べる素敵なまとまりを作ります。僕は、この曲をレッスンするときに、「素敵な男女が踊っている足の動きを考えてごらん！」と言って、右手の人差し指と中指を踊っている人の足の動きのように動かして、歌いながらリズムに合わせてステップを踏んでいるように左に移動させて「ほれ、こんな感じで踊っているように弾こうよ！」とよく言います。その後の5小節からの振り付けは、2人のダンサーは右に移動して、踊り始めた位置に戻る。その後の9小節目からはリズムが軽く変化して、音量も「P」になるから、「：：チョンチョン」という爪先立ちしたステップ・・・という感じです。



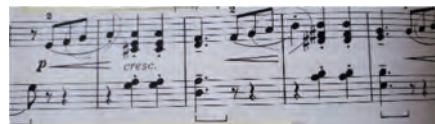
●YOKO：MASA先生のおっしゃるように、素敵な男女が踊る様子、足の動き…優雅なダンスシーンを思い起こします。ピアノ作品の、特に初中級レベルのワルツは、「ブンチャッチャッ」3拍目まできちんと入っているケースが多く、特に子どもの頃は、3拍目は自分の指で、力をすっと抜くように頑張ってきましたが、ギロックはリズムの形に、楽に、ワルツらしく弾くコツを組み合わせたのですね。

さて、分析ポイント③素敵な和音をチェックしよう！に進みまして、…素敵な和音と言えば、繰り返される9thでしょうか。



★MASA：なるほど！出だしのメロディー「ソドミ」の次の「レ～」が9th（根音「ド」から9度の音）ですね？とても素敵な響きを作っていますが、9thについては、チェックポイント⑤のメロディーのところで考えるとしてよろ

しいですか？ここでは、ポイント③の素敵な和音としてまず、「ミファソ」の次の『ラララ|ファ～』、「ファソラ」の次の『シシシ|ソ～』の2カ所！『ラララ|ファ～』のコードネームは『A7|Dm』で、この2小節だけで考えると二短調の『V7|I』です。そして『シシシ|ソ～』のコードネームは『B7|Em』で、この2小節だけ考えるとホ短調。とても素敵な響きと変化を作っています。



*In Old Vienna ©1969 by The Willis Music Company Assigned to Zen-On Music Company Ltd. for Japan



●YOKO：MASA先生、これは転調ですか？



★MASA：オオ～、鋭いところをついてきますね～！これは転調ではないと思います。調性は八長調なのですが、『A7|Dm』のところは、八長調のⅡ度のDmの前にA7がきているから、ちょっと二短調カラーになり、『B7|Em』のところは、八長調のⅢ度のEmの前にB7がきて、ちょっとホ短調カラーになっているのがいいと思います。クラシックの和声では、二短調やホ短調からドミナント（V7の和音）を借りてきているから、借用和音（副属七）と呼ばれます。（ジャズの理論では「セカンダリー・ドミナントセブン」と言う）長さも1～2小節と短いし、転調はしていない。僕はよく、日本（八長調）にずっといたら退屈になるから、韓国（二短調？笑）や中国（ホ短調？笑）に2時間遠足に行ったらランチして帰りたいなものが、借用和音。1泊お泊まりしたら転調なんだよ！と冗談で説明します。



●YOKO：借用和音は、関空からの日帰り韓国の旅！でしょうか（笑）気軽にありながら、ちゃんと旅を満喫でき

るのは嬉しいです。その土地の、本物の空気を一瞬でも吸い込める感覚ですね。先生、曲は全然違うのですが、シヨパンのエチュード「革命」のラストスパート（笑）、八短調から、一瞬、変二長調、口長調、のような感じで動きがありますが、あれも借用和音と同じ働きでしょうか？



★MASA：オオ～！ますます鋭いところをついてきますね～！笑。「革命」のテーマの再現部からコーダに行くところですね？転調にはいろんな方法があって、この辺はなんと言えればいいんでしょう？半音でズれているような感覚もあって・・・半音階的転調と言えいいのかな～？だんだん自信がなくなってきています～！（笑）いずれにしても、ここは借用和音ではない。一般的に「借用和音」というのは、近親調からのV7の借用を言います。近親調って、属調、下屬調、平行調、属調の平行調、下屬調の平行調、とありましたよね？アレです。最後の譜例で説明しますね。

まず、V度のGコード（ソシレ）の前のD7は、属調（ト長調）からの借用。IV度のFコード（ファラド）の前のC7は、下屬調（ハ長調）からの借用。VI度のAm（ラドミ）の前のE7は、平行調（イ短調）からの借用。

Ⅲ度のEm（ミソシ）の前のB7は、属調の平行調（ホ短調）からの借用。

Ⅱ度のDm（レファラ）の前のA7は、下屬調の平行調（ニ短調）からの借用。

借用和音はとても素敵なコードで、

クラシックからポピュラーまで、借用和音を使ってない曲はない！と言って面白いと思っています。



●YOKO：MASA先生、私が最初に半終止と思った、14～15小節目の「ラ～レ | ソ～」のところはコードネームが『D7 | G』でト長調のカラーになっていますね？また後半の、「ラシド」『ミミミ | ド～』もそうですね？ここは、コードネームは『E7 | Am』で、イ短調の『V7 | I』ですね？



★MASA：そうそう！素晴らしい～！



●YOKO：最後の「ブラ、ド、♭ミ、♭ソ」の和音は、どのように考えたら良いのでしょうか？コードネームはA♭7で、変二長調のV7の和音ですよ？



★MASA：この和音もとても魅力的ですよ？ちょっと長くなるので、次回にしませんか？



●YOKO：承知しました！借用和音は、ひとつの和音から様々な要素や伝わってくる音楽があって、意外と身近なところにたくさんあると思います。

皆さま、次回もどうぞお楽しみに、ご意見ご感想もお待ちしています。

↓↓参考譜例 八長調の和音と借用和音

(MASA先生の自筆譜！)

各支部からのレポート

楽譜出版のからくり裏話 セミナー

【大阪梅田カワイ・ジュエホールにて】
6月26日(月)



日頃から、楽譜が欠かせないピアノ指導者にとって、楽譜、出版に関する知識は？というと、実はよくわからず、遠い世界のこのように思える人も、中にはいらっしゃるのではないのでしょうか？

全音楽譜出版社より、新居隆行さん、渡邊裕子さんにお越し頂き、「楽譜出版」に関するセミナーが開催されました。以前は堺支部主催で、著作権や楽譜印刷技術についてのセミナーを開催し、大変好評でした。引き続きのメンバーも、初めて参加するメンバーも、新居さんのお話を興味深く聞き、学ばせて頂きました。

楽譜出版に関するさまざまな「なぜ？」を解き明かすセミナー、内容は次の通りです。

- ・カラー刷とモノクロ刷、そんなにコストが近いの？
- ・外国曲（ポピュラー）の楽譜が少ないのはなぜ？
- ・音源付きの楽譜、どうしていまだにCDなの？など。（記/前田陽子）

安田裕子先生もオンラインで参加

【京都支部】8月定例会

京都支部、8月の定例会では、カナダより、安田裕子先生がオンラインでご参加くださいました。安田先生の、

ヨーロッパ旅行についてのお話があり、モーリス・ジュルノー作品、カナダ初演の様子を、伺いました。

また、来年のギロック京都支部での、ギロックコンサート開催について安田先生とお話も弾み、今後の楽しみが増えました。グレンダ・オースティン「ふたりで世界旅行」より「ニューヨーク五番街」、ギロックの世界より「夢でダンスを」を皆で、弾きあいもしました。（記/武知明美）



石川支部でも安田先生が オンラインで定例会に参加

【石川支部】定例会

協会会報誌91号に、安田先生が書かれた、モーリス・ジュルノー（フランス）の記事が掲載されていました。石川支部のメンバーがこの記事に大変興味を持ち、定例会で安田先生とオンラインで「ジュルノーの世界を求めて、フランス・ドイツ2週間の旅」を伺いました。

安田先生の情熱、求心力、行動力…はとても一言では言い表わすことは出来ませんが、ギロックをはじめ音楽も人もさまざまなお会いや繋がりが人生をより深くより豊かに彩る大切なものだと痛感した時間でした。次回、来日された際には、ぜひリアルでお会いし、またいろいろなお話を伺えたらと思います。（記/富田美智子）



グレンダさんの配信を 定例会で視聴

【大阪支部】9月定例会

9月の定例会は、支部メンバーの教室で、美味しいお茶とお菓子を頂きながら、優雅にグレンダの配信を視聴しました。しかし、始まったとたん、「えものをさがす子猫」「オルゴールのワルツ」など小学生が弾く曲がこんなに豊かな曲だったなんて！！という驚きに始まり、「Ariel」「金魚」は一つ一つの音をどう弾いて何を表現したいか、ここまで丁寧に考え抜かなければいけないだと圧倒され…お茶を飲むより息をのむのに忙しい80分でした。ギロックの音楽は、子どもの指に優しく、大人の心に優しい、どの曲もとても豊かで満足する音楽です。

10日後に控えた発表会でグレンダの「華やかなワルツ」を私は弾く予定なのです。

曲そのものはとても好きで、でも、どのように演奏しようかずっと悩んでいたのですが、配信を見た帰り道は「最初は決然と、次はもっとゆったり弾いて、ここではもっとタメて弾きたい」などとアイデアが次々溢れてきて、ウキウキワクワク、帰ってからの練習が一気に楽しくなりました。メリハリのはっきりとした華やかで優雅なワルツに仕上がりました。本当にいい刺激を頂いた動画に感謝でいっぱいです。

（記/池田しのぶ）



8年ぶりのコンサート開催 「弾こう♪聴こう♪みんな でギロック」

【札幌支部】9月3日

自然あふれる藻岩山フォレストギャラリーの素敵な空間で第1部は4歳の「ねこちゃん」から大人の連弾「ジャズプレリュード」まで28名の演奏が本当に素晴らしくギロックの音楽を十分に楽しむ事が出来ました。第2部はメンバーが時代を感じるプログラムを組

みました。ライアーという豎琴とピアノで「夏の夜空の星」を演奏して下さったゲストと一緒に最後までギロックを満喫しました。

反省会では「今度はどこで？「ファミリーの曲も入れたいね」「もちろん池田さんの曲も」…と話がふくらみ、きっと近いうちに実現するでしょう。次回を楽しみに、引き続き定例会では「ピースコレクション1」とグレンダの「ジャズ組曲」を頑張ります！

（記/小川ひとみ）



コロナ禍以来の集まり

【愛知支部】9月定例会

コロナ禍以来、ようやく9月に7名のメンバーのうち5名が集まる事ができました。数年間のブランクを全く感じない楽しい会になりました。

数年分の積もる話をしてからメンバーそれぞれが今、一番演奏したい曲を披露して終了。今後の活動については次回までに考えることになっています。

（記/徳田あつ子）



4年ぶりの言葉とともに

【仙台支部】

この夏は「4年ぶり」の言葉とともに、各地で賑わいが戻りました。その流れは今も続いています。

仙台メンバーたちの主宰する発表会や演奏会の準備で、暑い中練習を重ねた成果に笑顔が弾みます。新メンバーが加わり会場も移転し、新年度がスタートしました。個人的には、ジャズフェスト、仙台クラシックフェスティバル、山車御輿の音頭あげが、頭の中を渦巻いています。

(記/小野寺朋子)



仲間がいることのありがたさ

【長崎支部】

長崎ギロック会では引き続き、月一度に定例会を行なっています。今は「魔法のピアノ」と、時々、連弾を弾いています。合間には、コンクールの課題曲の演奏法について話し合ったり、レッスンの悩みを相談し合いながら、楽しく過ごしています。

そういう仲間がいることが、ありがたいなと思っています。(記/福田)



楽譜のご案内

「気球は風に乗って」カワイ出版

【宗像支部メンバー後藤ミカさん】



皆さま、こんにちは。宗像支部の後藤ミカです。このたび、カワイこどもピアノコンクールに課題曲を書かせて頂きました。お題が「乗り物」なので男の子っぽい曲に偏らないよう、編集部と相談しながら、色んな視点のタイトルで4曲作りました。

「山車がとおるよ(連弾)」「2そののスワンボート」「紙ひこうきとばそうよ」「回転木馬」

それぞれの思いを巻末に掲載してあります。YouTubeに動画をアップしましたので、良かったらタイトルで検索してみてくださいね♪

(記/後藤ミカ)

ジュルノーとギロックの音楽を通して



ヨーロッパで出会った人々

ザールブリュッケン〜パリ・旅行記 2023年夏 記/安田裕子



トーマス・ベッツさん ピアニスト

現在、演奏活動とともにドイツ、ザールブリュッケン音楽大学で後進の指導、育成にあたる。子どもから音大生までプライベートレッスンもおこなう。フランス人ピアニスト、ジャン・ミコー(1924-2021)の助手を長年務めた。

「心より出づ(いづ) 願わくば再び心に至らんことを」(Vom Herzen - Möge es wieder zu Herzen gehen) <「ミサ・ソレムニス」第1章(キリエ)の冒頭より>

これは、ベートーヴェンの言葉ですが、教えるときにも同じことが言えます。レッスンでは、確かな技術、音に対する感性、そして音楽スタイルの理解と、自信を与えることを重視しています。私は可能な限り、生徒たちの考えを自由に尊重できるようにサポートし、生徒の熱意と愛情を音楽に活かし、一緒に音楽を作るように、生徒たちを励ましています。

(トーマス・ベッツ)

～ドイツ/ザールブリュッケン トーマス・ベッツさんに会う!～

モーリス・ジュルノーの作品をレコーディングしたドイツのピアニスト、トーマス・ベッツに会いに、ドイツ・

ザールブリュッケンへ行った。トーマスは午前中、大学で教えていたので、お昼過ぎにホテルまで迎えに来てくれた。「やっと会えたね!」と一言目にかけてくれたので、ドキドキ感からすぐに解放された。

ザールブリュッケン音楽大学の構内を見て歩き、トーマスのレッスン室を訪れた。スタインウェイの大きなグランドピアノが2台、一緒に姿見や譜面立ても置かれていた。彼は声楽の生徒の歌曲解釈指導と、副科ピアノの指導をしているという。彼のピアノの演奏は曲の解釈がとても明解で、まるで物語の朗読を聴いているようによくわかる。歌の伴奏という分野で活躍しているから、きっと違った側面から音楽を見られるのかもしれないと思った。



↑ザールブリュッケン音楽大学
トーマスさんのレッスンルームにて

トーマスがいつも演奏をする、大学のコンサートホール(集客は300席ほど)へ行った。そこは素晴らしいオルガンも備えられたホールだ。

街の至る所はカフェやレストランで人々が外のテラスで集っている。テラ

スはパリとまた違う雰囲気。シンプルで整然としている。



↑ガールブリュッケンのカフェテラス



↑トーマスさんのご自宅



↑トーマスさんのスタジオ

4階建の家へ到着。1～2階はテナントが入居していて、3階がトーマスの家。そして4階がスタジオになっている。植物が好きで家中グリーンであふれている。4階のレッスン室は無駄な装飾はなくとてもすっきりしたスペース。スタインウェイのピアノが置かれているが、音響のために設計されたのかと尋ねたほどいい音がした。まるでコンサートホール！たまたまピアノを置くスペースがあったので、そこにピアノが収まったようだ。

トーマスの人柄が穏やかで、私はピアノを弾くとき間違ったらどうしようという恐怖感はなく、家で弾いて

いるような気持ちで弾けた。何より音響がいいのでピアノを弾いていて気持ちがいい！アドバイスをもらったら、その場でやり直してみたいという気持ちの余裕も彼は作ってくれた。

ジュルノーの「ワルツop2」をトーマスの演奏のようにかっこよく弾きたいと言った。そうしたら、即トーマスから「同じに弾かなくていい。ミコー先生は、ひとりひとり生徒は違うから、それぞれにあったレッスンをした。だから他の人と同じように弾かなくていい」と言われた。そうだった、私は自分の力で弾ける「ワルツop2」を作ればいいのだと悟った。

私は手が小さいから、大きなコードをつかむ時に無理ができるので、左手で弾くコードも右手で手伝って弾くと、ベースの音を少しでも長く保てることを学んだ。また、すぐに次の音へ移ろうとするから、ペダルでベース音をキープするのも無理があることを知った。と言うわけで、また一から指使いを考え始めた。どの曲も言われたことは「歌いなさい」。自分では歌っているつもりだったけどピアノが歌っていないのだ。それと呼吸をすること。いざ呼吸をしようとする、どこで息を吸ってどこで吐いていいのかわからなかった。だからピアノを弾く時メロディーを声に出して歌ってみることに始めた。そしてシンプルな曲で呼吸の練習をするように勧められた。そういえば、グレン・グールドもキース・ジャレットも歌いながら弾いていたなと思った。

かねてから疑問に思っていた、自分のアームウェイト（腕の重み）の使い方について、トーマスに質問した。私は自分なりに学んできたつもりだったが、自分の耳に聴こえる音は満足できなかった。

アームウェイトが、かかっているかいないかを確かめる方法は「指を鍵盤へ落とし、その肘を軽く外側へ引っ張ってみる。緊張していると肘は動かない。肘がすんなりと外側へ動くと肩から脱力できている証拠になる。」私

の場合は、腕は脱力していたけれど、肩が緊張して身体全体を使ってないことになる。マンツーマンのレッスンの大切さを再確認した。

この3つの点をマスターするだけでもだいぶ時間がかかりそうだ。一旦癖がついてしまうとそれを治すのは倍、時間がかかる。

トーマスの家があるセシリエン通りは、150年ほどの古い家が並んでいる。音楽のこと、あるいは人生のことなどいろいろ話をしている、トーマスから何度も聞いたのは、「私は自分を幸せにするために音楽をしている。そして周りの人も私の音楽を聴いて幸せを感じてほしい」と言うことだった。インターナショナルなピアニストになれる素養を持っていたのに、自分の心を大切に、自分自身をしっかり持ち続けたトーマスの考えにとても共感した。そして私がギロックから学んだ大きなことも「自分をしっかり持ち音楽で自分を表現すること」だった。そのことをトーマスに伝え、ギロックのことも話した。共通点がいっぱいあった。「ワルツエチュード」と「終奏曲」も聴いてもらった。

トーマスには、初めて知り合った時から「終奏曲」を弾いてもらえるように、お願いしていた。ここで演奏を頼んでみた。すると快く引き受けてくれ、SNSはダメだけどビデオに撮ることを許してくれた。ヨーロッパにもギロックの灯火がまた一つともった気がして、とっても嬉しかった。「悲しまないで私の曲を弾き続けなさい、わかったね。もしたくさんの人々に私の曲を弾いてもらえるようになったら、私は永遠に人々の心の中で生き続けることができるのだから」ギロックの言葉を思い出したら泣けてきた。

この演奏は日本ギロック協会のホームページのライブラリーに上げてもらった。ぜひ聴いてほしい。

<https://www.gillock.jp/library/movie/>

ザールブリュッケンはとても小さな町だが、ザールラントの首都なので、文化はたくさん入ってくるそうだ。



↑トーマスさんが住むセシリエン通り



↑街には緑の電車トラムが走っている

この日の夜はモダンダンスの公演が、100人弱収容のダンスシアターで行われた。ラッキーなことにバックの音楽は生の室内楽が奏でる。舞台上にも客を呼び寄せる形で行われた。「Privacy of Things」というタイトルで、メディアやコンピューターでだんだん人のプライバシーへ入り込んでいく現代社会の様子を表したもの。

ダンスの公演が終わってから、カフェでまたアート談義をした。ドイツなのでビールが飲みたかったけどここは我慢。私がお白湯とバゲットで旅を続けてきたので、カフェにバゲットが置いてあるのをみてトーマスが「バゲットもあるよ！」って笑わせてくれた。

芸術はその人の表現だから、「自分をしっかり持つこと」「自分で考えて作り出す力をつけること」の大切さを悟った。英語では曲を仕上げていくことをmake music（音楽を作る）という。音楽を作るのは作曲だけでなく、楽譜をもとに演奏するときも、自分の考えを生かして自分だけの表現をしなければならない。だからギロックは「教師の役割は、生徒が表現するときの手助け」と言っている。

～一人で聴くコンサート～

翌日は午前中も時間をとってくれた。私が弾くジュルノーの、「シンプル・カンティレーヌ」を聴いてもらった。その後、トーマスがベートーヴェンに興味を持つきっかけになった曲、「バガテルOp.119/ Op.126」を、そしてショパンの「ノクターンop27とBl 49a」を演奏してくれた。演奏が終わってしばらく拍手もできないほど、音楽の中に引き込まれていて、その中から抜け出してくるのにしばらく時間がかかった。このような演奏ができるのはなぜか、トーマスに尋ねてみると、すぐそばで聴いていることもあるだろうけど、音楽を演奏することは呼吸をし、瞑想するのと同じだと、だから音楽を通して演奏者も聴衆も音楽の世界へ入っていくのだらうと言った。なんと言う贅沢な時間をもらったのだらう。何歳になっても諦めないで、自分の思うような演奏ができるようになりたいと強く思った。ジュルノーの音楽を通してトーマスと知りあい、音楽を惜しみなく分かち合ってくれた事に心から感謝をした。200年以上も前の音楽家の教えが、次の世代へ受け継がれ、一人の音楽家を通すごとに、その人の考えや色がそこに加えられ違った花を咲かせていく。

ショパン→エミール・デコム→アルフレッド・コルトー→ジャン・ミコー→トーマス・ベッツというルートを考えた時、音楽ってなんてロマンティックなんだろうと思った！



↑お気に入りの2ショット！



～フランス/パリ、ピアリッツ ジュルノーの軌跡！～



↑シャンタールさん（左）

フランス・パリでは、ジュルノーの娘、シャンタールと会った。セント・ラザレ通りにあるアルヌーボー調のレストラン「モラード」で4時間ジュルノーの話を聞かせてもらった。彼はとても静かで穏やかで、その上思慮深い人だったそうだ。

週末にはパークモッソーを散歩し、コンサートを聴きに行ったセント・オーガスティン教会とセント・マドレーヌ教会など二人でジュルノーの足跡を2日に渡りたどった。まずパリでジュルノーが生活をした8区を中心に歩いた。この8区はフランス大統領官邸、内務省があるフォーブール、サントレあたりは旧王侯貴族の大邸宅が多く立っている。そのほか凱旋門、シャンゼリゼ通り、コンコルド広場、マドレーヌ教会もこの8区にある。

ジュルノーが23歳の時、作曲法を学んだエコールノルマル音楽院と対位法を学んだナディア・ブーランジェのアパートを見に行った。



↑ナディア・ブーランジェのアパート



↑エコールノルマル音楽院

エコールノルマル音楽院は、1919年にオーギュスト・マンジョーがアルフレッド・コルトーに私立の音楽院を作る話を持ちかけた。当時演劇やバレエなどが専門化して音楽と分離傾向にあったことに反発したコルトーが、総合音楽教育が必要だと設立に力を注いだ。現在ではアジアからの留学生が多く学んでいる。入学時に他の国公立の音楽院のように年齢制限がないことが、ここの大きな特徴だ。

～ピアリッツ～

ジュルノーは市内にあったホテルデュパレスで生まれた。その後、ナポレオン3世の妻、ユージェニーの別荘（現在のホテルデュパレス）が売りに出され改装されている間、この父が経営していた白い建物のホテルレジナでジュルノーは育った。ホテルレジナでは、しばしば室内楽のコンサートが行われ、滞在客は貴族や皇族たちだけで、ジュルノーはブルジョアジー（資本家階級）の中で育った。



↑ホテルレジナ



↑ホテルデュパレス（室内）



↑ホテルデュパレス（外観）

新しくなったホテルデュパレスも、ジュルノーのお父さんが経営していたので、彼はしばしば足を運んでいた。この建物はユージェニーのために建てられたのでEの形をした贅を尽くしたホテルだ。はじめは皇族たちだけが利用していた。ジュルノーは長時間ここでよく海を眺めていたという。青緑の海、波の音、潮の香り、風の音。全てのものがジュルノーの心を音楽へ導いていったに違いない。

1800年代に英国のコロニーに作られた高級英国ホテルは、ベルヴュースクエアーにあった。オーナーのキャンパーニュは、ホテルレジナに住んでいたジュルノーの家族をよくここで行われたコンサートへ招待した。この経験はジュルノーの音楽へたくさんの影響を与えた。そのことへ感謝の気持ちを込めてキャンパーニュの同年代の息子ポールにジュルノーはワルツop2を献上している。

大好きなワルツがこの場所から生まれたこと。そしてこのベルビューにあるキャンパーニュ広場のホテルカフェデュパレスに宿泊したのは、ジュルノーに導かれてここへきたのかもしれないと思った。



↑カフェデュパリ

～ヘンリー・ルモアンヌ 出版社へ～



↑ピエール・ルモアンヌさん（左）
ヴァレリー・アルリックさん（右）

パリの最後の日はジュルノーの楽譜を出版しているヘンリー・ルモアンヌ出版社へ行きピエール、ルモアンヌ社長とアートディレクターのヴァレリー・アルリックと話をすることができた。少しでもフランスの楽譜を求めやすくしてほしいこと、そしてジュルノーをどうしたら広められるか話をした。ルモアンヌ社長は「やはり人から人へ、口伝えが大切だろう」といった。私はギロックの時と同じように、草の根で広めていこうと思った。

（記/安田裕子）

みんなが主役！ みんなでピアニスト！！

WakuWaku

ピアノフェスティバル2023

WakuWakuピアノフェスティバルはデジタル時代の新しいスタイルのピアノフェスティバルです。このフェスティバルは参加者の投稿動画によって開催され、参加者はフェスティバルの会場となる特設ページでお互いの演奏をすべて視聴できます。また、参加者全員に演奏に対するコメントとその演奏にふさわしい賞が与えられ、イベントの最後に行われるアワードセレモニーでは、各賞の中から選ばれた演奏とゲストコメンテーターの皆さんによる楽しいお話のエンターテインメントショーがリアルタイム、または期間限定のアーカイブ動画でご覧いただけます。

オンライン・アワードセレモニー ゲスト・コメンテーター



世界中を覆いつくしたコロナ禍によって、ピアノを習う人も教える人にも何かモチベーションを維持できるようなイベントが出来ないだろうか考えたのがオンラインで開催するWakuWakuピアノフェスティバルのスタートでした。

そして、コロナがひとまず収束した現在、このオンラインでのイベントのもつ本来の目的はすでに達成され、2020年から4回開催してきたWakuWakuピアノフェスティバルを、今回をもちまして終了することといたしました。

以下は実行委員として、参加者のみなさん一人ひとりにあたたかいコメントを書き続けてくださった日本ギロック協会会員の方々のご挨拶です。

池田奈生子 (札幌支部)

コロナ禍の中、全国、海外からの参加者の一生懸命な・楽しんだ・アイデア一杯の演奏を聴かせてもらい、沢山の元気と学びをいただきました。

課題曲として作品を取り上げてもらえた事にも感謝です。

参加した全員で育てたWaku Wakuの芽が、この先どんな花を咲かせてくれるのか楽しみです。

実行委員の皆さま、4年間ありがとうございました&お疲れ様でした♪

高橋久美子 (京都支部)

お手伝い出来たこと、ピアノを愛する人たちのお役にたてたことを嬉しく思っています。参加者、指導者、ゲストコメンテーターの方々みんなが、ホンワカ幸せな気持ちになる素敵なイベントでした。

福井尚美 (事務局)

コロナもようやく収束！WakuWakuピアノフェスティバルもひとまず今回で終了となりました。MEFO2023実行委員会にも参加させていただきいろいろな面で勉強させていただきました。感謝いたします。

野口左起子 (事務局)

実行委員、また、演奏者としてこのフェスティバルに携わることができ、楽しく、また勉強にもなりました。感謝の気持ちでいっぱいです。ゲストコメンテーターの先生をはじめ、皆様、本当に有り難うございました。

宮鍋千賀子 (石川支部)

コロナの感染が拡大し何もかもが中止と

なり子供たちの発表の場として初回のwakuwaku piano festivalから参加させていただき本当に感謝でいっぱいです。

練習期間が夏休みということもあり目標を持って取り組むこともできましたし親子連弾では、お母様のほうが緊張されたり、何回と撮影したり楽しい思い出ばかりです。実行委員としては何のお役も立てず申し訳ないかもしれませんがご参加されている皆さんの演奏にコメントを書かせていただくことで自分自身とても勉強になりました。

回を重ねる毎にお衣装や演出にも工夫されていたりピアノを初めて間もない生徒さんやシニアの方、海外のお教室からの参加も増えて本当に楽しい企画に参加させていただいたことを有り難く思っております。

また、アワードセレモニーでの安田先生はじめ課題曲を作曲された先生方の生のコメントもレッスンに役立てて行けたらと思います。

今回で終了とはなりますがこれからもギロックをはじめギロックファミリーの作曲家の先生の作品を愛していただきたいと思っております。

実行委員の先生方そして、ご参加下さった皆様、本当にありがとうございます。

今野万実 (堺支部)

ワクワク終了なのでですね。毎年参加者としても、生徒たちとても楽しみにしておりましたのでとても残念ですが、またこの様な企画が実現できる日が来るといいなと願っています。

皆様ほんとに素敵な時間をありがとうございました！！

野村啓子 (大阪支部)

世界中を襲ったコロナ禍に発足し、WAKU WAKU度満開のフェスティバルでした！沢山の方の演奏が聴けて、自分でも参加して、演奏～録画と楽しみ、賞も頂き、豪華ゲストからのコメントもとても貴重で嬉しかったです。

杉野みゆき (枚方支部)

コロナ禍が始まり、レッスンや発表会がままならなくなった時に始まったイベントでした。想像以上にたくさんの方に喜んでいただき、いろんな収穫がありました。役目は終えたかな、と思いましたがWaku Wakuでの繋がりはこれからも大切にしたいです。お世話になった皆様ありがとうございました！

WakuWakuピアノフェスティバルがWakuWakuな理由！！

- 参加者全員に温かなコメントが届きます。
- 年齢やレベルの垣根なく参加できる。
- 全員に賞があり、初心者の方も応援！
- 沢山のバラエティ豊かな演奏が聴ける。

日程 2023年

エントリー受付期間 6/1(木) ~ 7/31(月)
※応募多数の場合、受付を打ち切る場合がございます。

演奏動画の提出締切 7/1(土) ~ 8/31(木)

動画公開期間 10/10(火) ~ 12/25(月)

オンライン・アワードセレモニー 10/29(日)

※日程は変更となる場合がございます。

詳細 (裏面に掲載)

ソロ部門 38曲/連弾部門 19曲/アンサンブル部門 45曲

詳細・エントリーはこちらから！

WakuWakuピアノフェスティバル2023 Q

▼2021 デジタル動画 詳細・エントリー

▼2023 デジタル動画 詳細・エントリー

※送料 全部門1エントリーにつき [一般] 3,000円 [会員] 2,500円 (日本ギロック協会・関西ピアノ芸術連盟及びその生徒)

百田雅代 (堺支部)

ごく普通のピアノ学習者が気負わずに参加できるWakuWakuフェスティバルは、ほかにない稀有なイベントでした。

私も、私の生徒さんも、コロナ禍のなか、毎年大いに楽しませてもらいました。

主催の先生方、本当にありがとうございます。

変化の激しい社会情勢、次はどんなWakuWakuが良いか、じっくり考えたいと思えました！

北野美保子 (熊本支部)

コロナ禍でスタートしたwakuwakuピアノフェスティバルですが、立ち上げの先生方の行動力には驚くばかりでした。賛否両論あったとはいえ沢山の方達との縁が音楽で繋がりが心の安寧を保てたのではないのでしょうか。

鍵矢知佳 (愛媛支部)

第1回目の開催から微力ながらもwakuwakuピアノフェスティバルに関わりましたことに心から感謝申し上げます。国内外の様々な場所からたくさんの方の演奏と作品に出会えたこと、心から嬉しく思っています。音楽活動ができなくなるなんて思ってもみなかった2020年に始まった、このフェスティバルのおかげで、音楽の持つ素晴らしい力を感じることができました。さらに進化して、またどこかでお目にかかれそうですよ！

松原佳弥 (事務局)

オンラインでフェスティバルをする、なんてまるで夢物語だと思っていたことが、沢山の人たちとのアイデアや、意見を交換することによってどんどん形になっていく過程はとても面白い体験でした。また、内容的には、参加者一人ひとりの演奏を大切にするという従来のイベントにはなかったものとなったと思いました。演奏者や作曲家、編曲家と一つの曲をいろんな方面から語れるゲストのみなさんの存在も大きく、貴重なお話を聞ける場であったと思えます。

またいつかどこかでお会い出来ることを楽しみに、これからも音楽とともに笑顔あふれる世界を願っていきたく思います。

ご参加いただいた皆さま、ご協力いただいた皆様には心から感謝いたします。

ありがとうございました。



＜長すぎる！編集後記 vol.6＞

～聴くとは？～

私が車の免許を取得したのは、20代前半でした。当時、AT車限定という免許の区分が導入され、「それなら私も運転できるかも！」（マニュアル車の難しさを周りから聞いて、運動神経の良くない私は迷っていたため（笑））と自動車学校へ行き、免許取り立てで、友人を助手席に乗せました。高校時代からの親友である友人は、18歳で免許を取り、実家の車がマニュアル車、農家の家なので、軽トラもあざやかに運転できるという、運転に関しては大先輩です。「オートマ（AT）限定なんて、遊園地のゴーカートやな。」という友人のセリフを軽く流しながら、運転している途中で、友人がまた一言。「あのさあ、「音」、聴いてる？」

レッスンでは「音をよく聴いて」という言葉が何度も登場します。音を聴いていない、聴くことの意味が分からない、など、聴くに問題があると、特にペダリングは絶望的なものになります。指を動かすことが全て、と思っている場合も、（もちろん指は動かす必要がありますが）、こういう音楽にしたい、音色にしたいというビジョンが無いケースも、（演奏が平坦になるタイプでしょうか）、聴くところまで、意識が動かないために起こる問題ではないかと思います。小さな子どもだと足首を使うことが難しく、同時に聴く習慣も身につけさせて、と大騒ぎになるものの、若い力でそのうち出来るようになりますが、大変なのは、ペダルに苦手意識のある大人の生徒たちではないでしょうか。共通して思うのは、「聴く」ことがどういうことかよくわからない方が、ペダルの踏み方でも困っているようです。

初心者マークをつけて運転している最中で、まさかの「聴く」問題発生・・・。協会事務局のKAYAさん曰く、「エンジン音を聴くのはハイブリッドの車に乗るようになって、そういえば聴いてなかったな～。たまにタイヤに挟まっている石ころの音が気になるくらい。」（笑）

友人は、たとえAT車でも、エンジンの音を聴くべきで、アクセルの踏み方も、オン・オフではなく、何段階か踏み込みに加減があるはず、と、まるで、ピアノのペダリングのような持論を展開し始めました。「エンジンの音をよく聴いて、その方が車も長持ちする。」とアドバイスをもらい、妙に納得した私は、ピアノ同様にエンジンの音に耳を傾けて、アクセルを意識して踏むようにします。あの日の友人の言葉は、今でも運転中に耳に響いています。
（編集部・前田）

◆速報◆協会34周年記念パーティ& 京都ギロックフェスティバル 開催予定！

2024年9月1日（日）協会34周年記念パーティ
会場：兵庫県西宮市内

2024年9月6日（金）京都ギロックフェスティバル
会場：JEUGIA三条本店 J-Square

（いずれも詳細は次回会報でお知らせします）

日本ギロック協会は会員を募集しています。

仲間と一緒に研究や活動をすることによって、より良い音楽環境を作り、音楽を通じて社会に貢献してみませんか？

日本ギロック協会本部事務局

TEL・FAX 072-250-6965 公式ホームページ <https://www.gillock.jp/>

Afternoon Music 94号は2024年3月1日発行予定♪